

令和6年能登半島地震に伴う緊急調査航海について

- 学術研究船「白鳳丸」による緊急調査航海（2024/1/16東京発-1/23富山着）を実施。
 - 東京大学地震研究所、北海道大学大学院理学研究院、東北大学大学院理学研究科、千葉大学大学院理学研究院、東京海洋大学海洋資源エネルギー学部門、東海大学海洋学部、京都大学防災研究所、兵庫県立大学大学院理学研究科、鹿児島大学大学院理工学研究科と共同で実施
- OBS34台とOBEM2台の設置と、NT2、3、4周辺での海底地形調査（MBES、SBP）を実施
 - OBSの内訳：SPOBS(4.5Hz)26台、LTOBS（1Hz）5台、BBOBS 3台。
- 海底地形については、地震前のデータと比較して顕著な変化は見当たらない
- 今後の計画：
 - 2024年2月下旬に白鳳丸でSOBS26台、OBEM2台を回収。OBS20台、OBEM5台を設置。
 - 2024年夏頃を目処に、OBS、OBEMを回収。

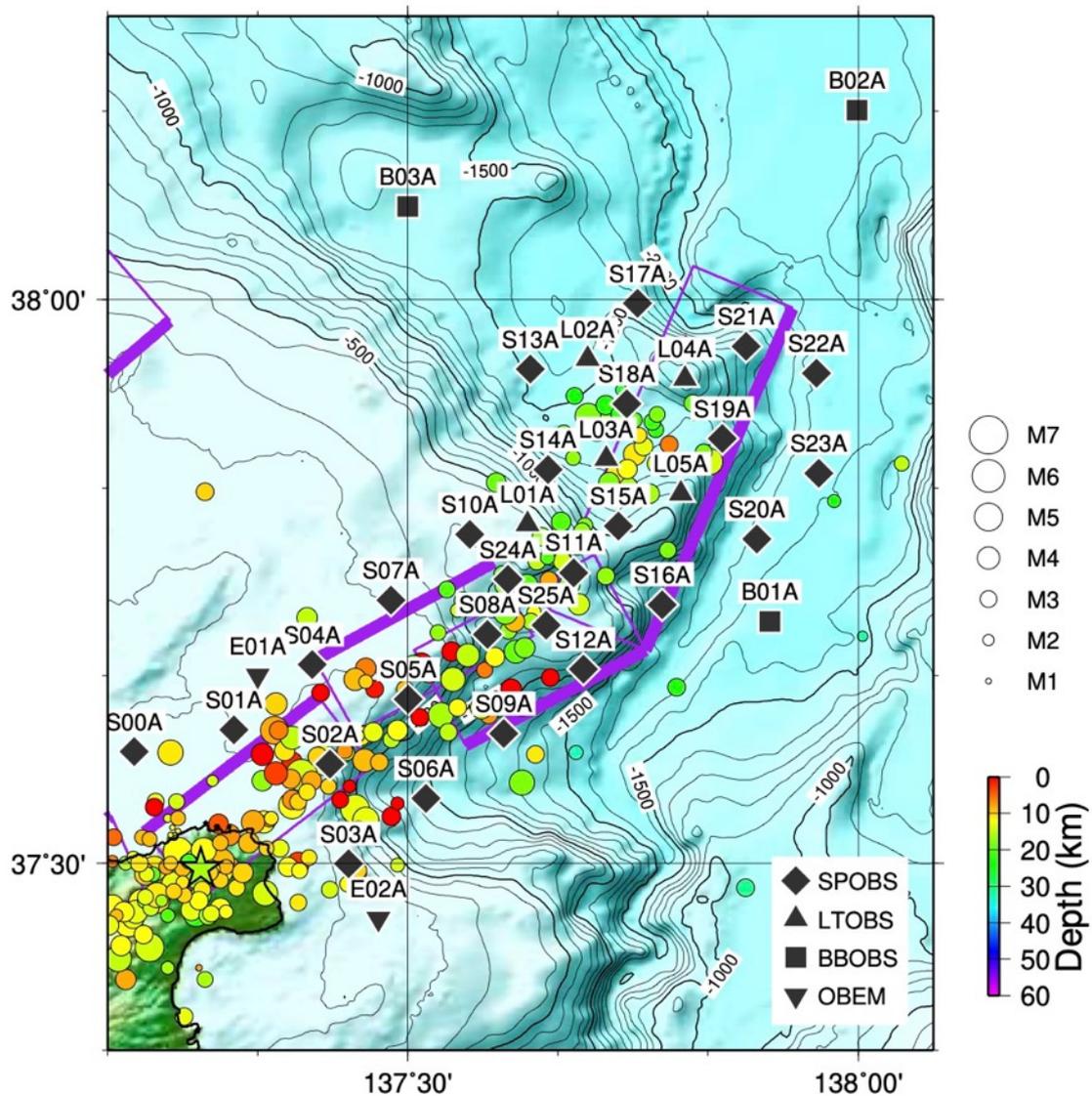


図1：白鳳丸KH-24-JE01航海で設置したOBSならびにOBEMの配置。★は気象庁による2024年1月1日に発生したM7.6の地震の震源。○は気象庁による1月1日に発生した地震の震源。紫四角は「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書（2021）による断層（NT1からNT6）。地形データは国土地理院、海上保安庁による。

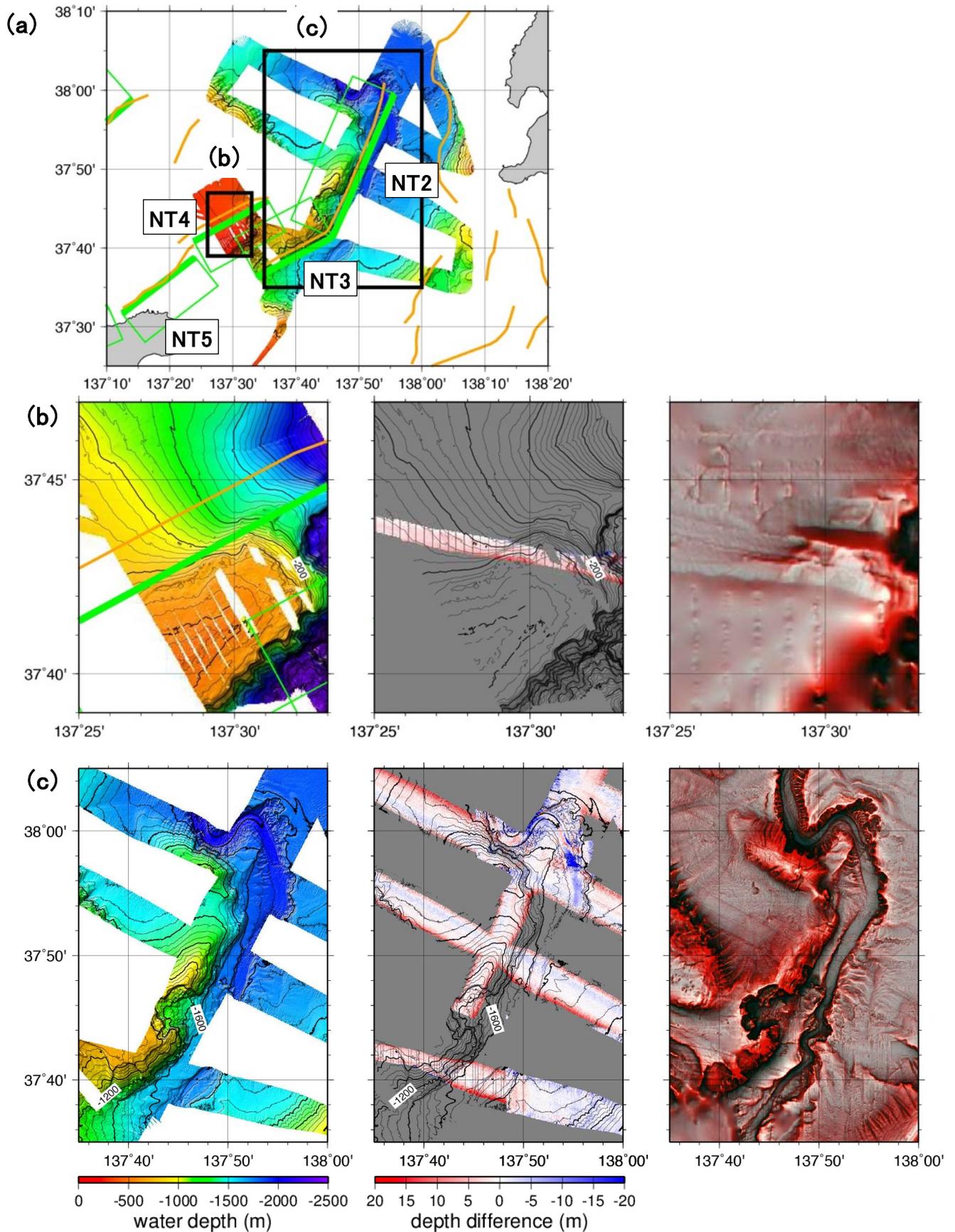


図2 : (a)白鳳丸KH-24-JE01航海で得られた海底地形データ。岡村(2019)による断層 (橙)と「日本海地震・津波調査プロジェクト」成果報告書 (2021) による断層 (NT1からNT6) (緑) を示す。太線四角は(b, c)で示す範囲。(b, c)NT4周辺 (b) ならびにNT2、3周辺 (c)の拡大図。海底地形 (左)、地震前に取得された海底地形データとの比較 (中) ならびに野他(2016)による赤色立体地図 (右) を示す。

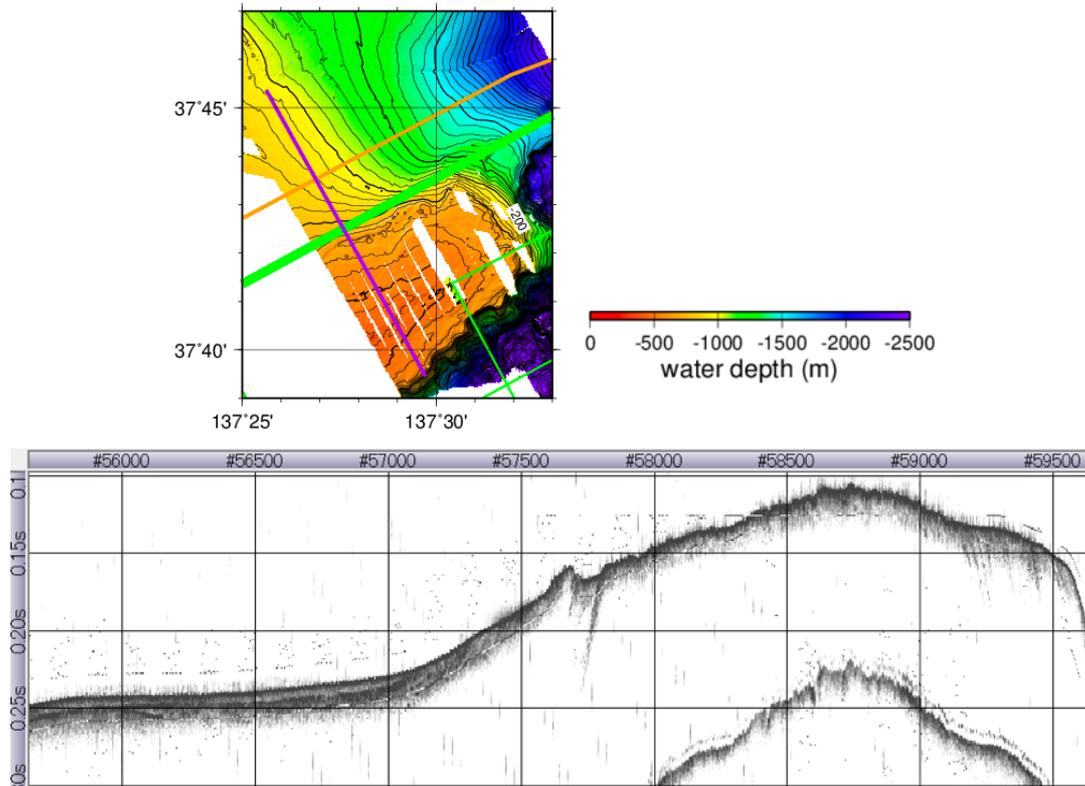


図3 : (a)SBPの記録例。上図紫線の範囲。縦軸は往復走時。